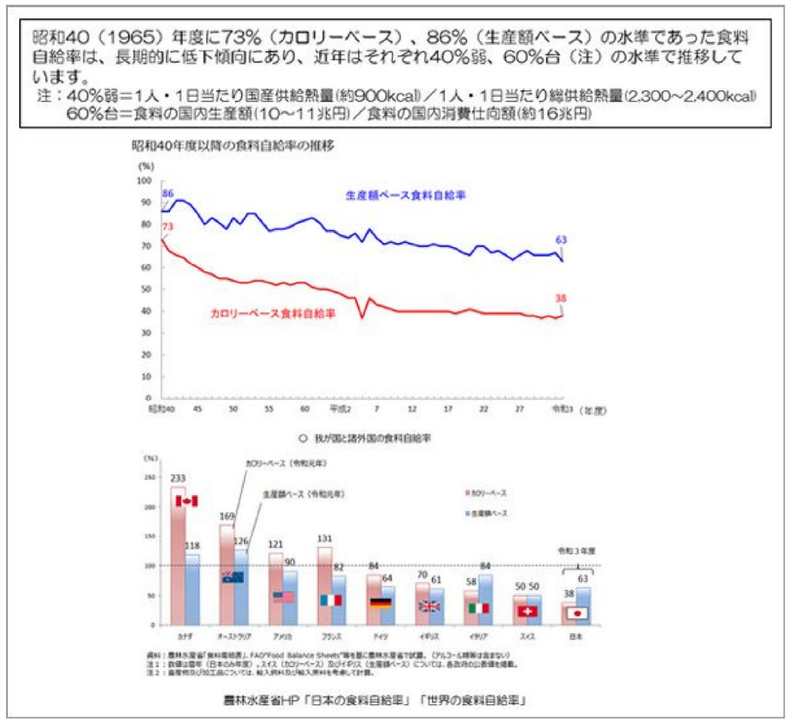
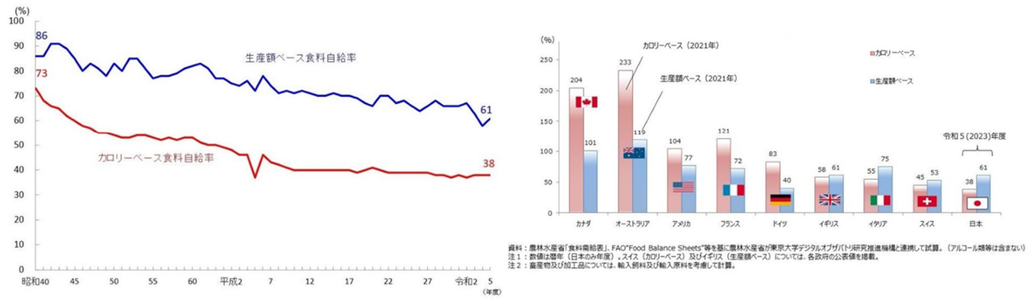
（参考）国産農産物安定供給効果 CVM アンケート方針（令和４年度版との比較）

<table>
<tr><th>番号</th><th>令和４年度アンケート</th><th>令和７年度アンケート（案）</th><th>修正事項</th></tr>
<tr><td>0</td><td>属性で割付するための質問（最新の国勢調査・国民生活基礎調査結果に基づき割付）
・性別（2 区分：男、女）
・年齢（3 区分：20～39 歳、40～59 歳、60 歳以上）
・居住地（2 区分：三大都市圏、地方圏）
・世帯年収（5 区分：200 万未満、200～400 万未満、 400～600 万未満、 600～800 万未満、800 万以上）
回答者の属性に関する質問
・未既婚（2 区分：未婚、既婚）
・子供の有無（2 区分：あり、なし）</td><td>変更なし</td><td></td></tr>
<tr><td>1</td><td>我が国の食料事情の説明①
 

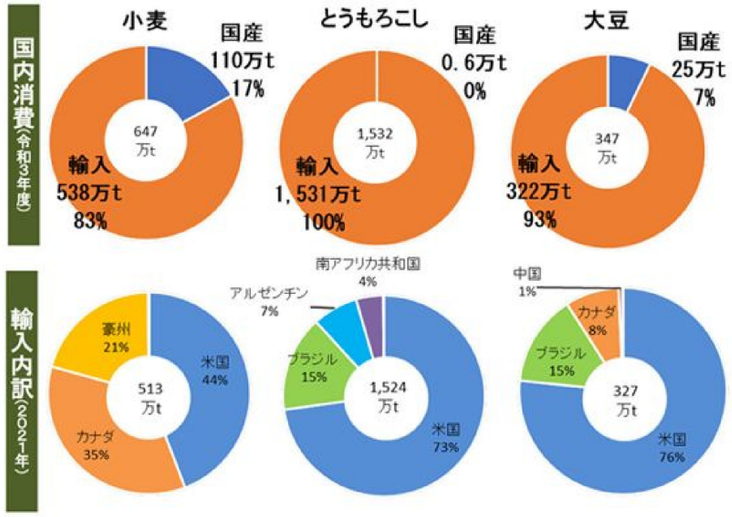
Q1 我が国の食料自給率はカロリーベースで38%、生産額ベースで63%であり、主要先進国の中で最低水準です。ご存知でしたか。
最も近いものを１つ選んでください。（１つだけ）
【 必須入力 】
1 知っていた ○　2 ある程度知っていた ○　3 知らなかった ○</td><td>1　我が国の食料自給率
○昭和40（1965）年度に73%（カロリーベース）、86%（生産額ベース）の水準であった食料自給率は、長期的に低下傾向にあり、近年はそれぞれ40%弱、60%台（注）の水準で推移しています。
○カロリーベースの食料自給率は38%ですが、国内生産と安定的な輸入、備蓄により、食料を安定的に供給することができています。
注：40%弱＝1人・1日当たり国産供給熱量(約900kcal)÷1人・1日当たり総供給熱量(2,300～2,400kcal)
60%台＝食料の国内生産額(10～11兆円)÷食料の国内消費仕向額(約16兆円)
食料自給率の推移　我が国と諸外国の食料自給率
 

出典：農林水産省ホームページ「日本の食料自給率」「世界の食料自給率」
Q1）我が国の食料自給率はカロリーベースで 38%で、主要先進国の中で最低水準ですが、国内生産と安定的な輸入、備蓄により、食料を安定的に供給することができています。ご存じでしたか。最も近いものを１つ選んでください。（1 つだけ）
①知っていた　②ある程度知っていた　③知らなかった</td><td>データを最新の情報に更新
質問文章に平時は、安定的な輸入と備蓄により、食料の安定供給を確保している旨を追加</td></tr>
</table>

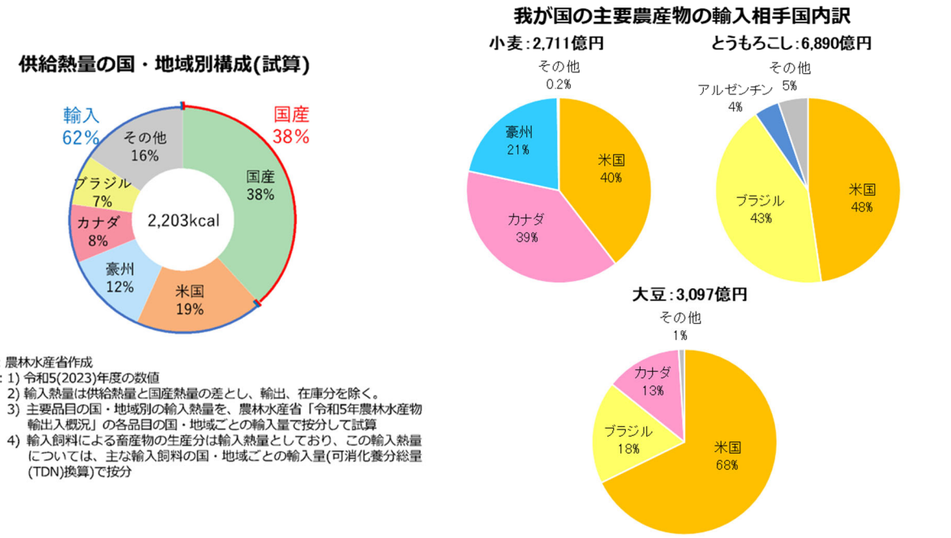
<table>
<tr><th>番号</th><th>令和４年度アンケート</th><th>令和７年度アンケート（案）</th><th>修正事項</th></tr>
<tr><td>2</td><td>原単位化において活用できるよう、回答者がカロリー自給率と生産額自給率のどちらを重視するかを確認するための設問

Q2 生命と健康を維持するために必要なエネルギーで表したものを「カロリーベース食料自給率」、作られた食べものの価値をお金で表したものを「生産額ベース食料自給率」といいます。
あなたは、どちらを重視しますか。最も近いものを1つ選んでください。（1つだけ）
【 必須入力 】
○ 1. カロリーベース自給率を重視する
○ 2. 生産額ベース自給率を重視する
○ 3. どちらともいえない</td><td>（設問を削除）
（生産額と供給熱量の両面から評価している国産農産物安定供給効果を、緊急時の食料安全保障に対する評価の視点から供給熱量を重視した形に見直すため、熱量・生産額を重視するかは、調査不要。）</td><td>不要なため、設問を削除</td></tr>
<tr><td>3</td><td>我が国の食料事情の説明②

主要農産物（小麦、とうもろこし、大豆）について、国内消費のほとんどを輸入に頼っており、輸入相手国も少数の特定の国・地域への依存度が高くなっています。

○我が国の品目別輸入状況
 

農林水産省HP「安定的な輸入の確保」
我が国の穀物輸入等をめぐる情勢（令和４年９月）

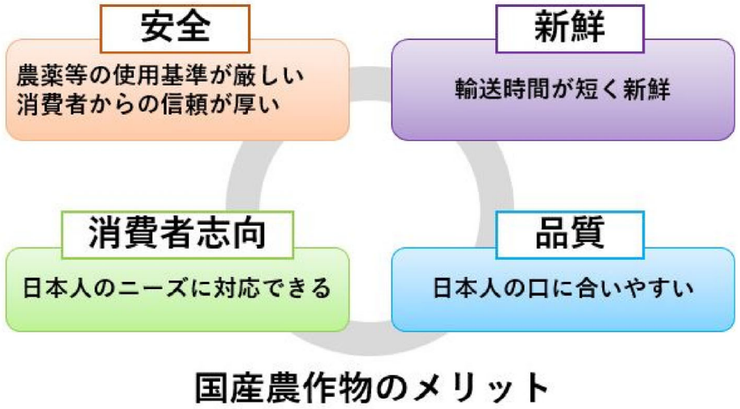
Q3 我が国では特定国からの農産物の輸入が多くなっています。
ご存知でしたか。
最も近いものを1つ選んでください。（1つだけ）
【 必須入力 】
1 知っていた ○
2 ある程度知っていた ○
3 知らなかった ○</td><td>２　我が国の食料輸入状況
○主要農産物（小麦、とうもろこし、大豆）は、国内消費のほとんどを輸入に依存しておりますが、輸入により安定供給が確保できる状況であれば、国民の生活に大きな影響はありません。
 

資料：農林水産省作成
注：1) 令和5(2023)年度の数値
2) 輸入熱量は供給熱量と国産熱量の差とし、輸出、在庫分を除く。
3) 主要品目の国・地域別の輸入熱量を、農林水産省「令和5年農林水産物輸出入概況」の各品目の国・地域ごとの輸入量で按分して試算
4) 輸入飼料による畜産物の生産分は輸入熱量としており、この輸入熱量については、主な輸入飼料の国・地域ごとの輸入量(可消化養分総量(TDN)換算)で按分

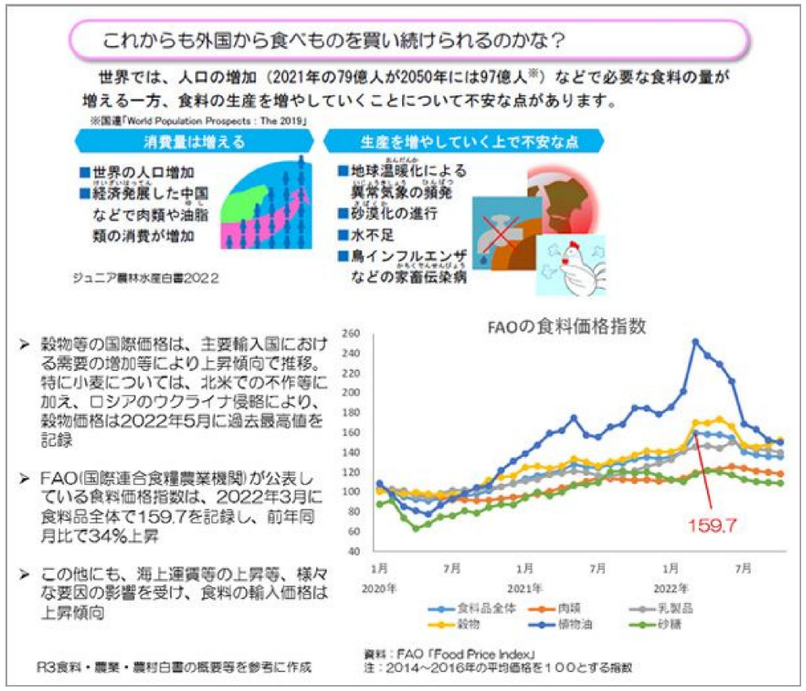
出典：令和６年度食料・農業・農村白書概要
農林水産省輸出入概況2023年をもとに加工

Q2）我が国では特定国からの農産物の輸入依存度が高まっていますが、輸入により、安定供給が確保できる状況であれば、国民生活に大きな影響はありません。ご存じでしたか。
最も近いものを１つ選んでください。（1 つだけ）

①知っていた　②ある程度知っていた　③知らなかった</td><td>データを最新の情報に更新
質問文章に輸入により安定供給が確保できる状況であれば、国民の生活に大きな影響はない旨を追加</td></tr>
</table>

番号	令和４年度アンケート	令和７年度アンケート（案）	修正事項
4	国産農産部の安定供給による効果の説明  Q4 国産農作物の安定供給としては、十分なカロリーが安定的に供給されるだけではなく、 良質（高品質、消費者志向、安全、新鮮）な農作物が安定的に供給される効果もあると考えられます。 この点についてどのように考えていますか。 最も近いものを1つ選んでください。（1つだけ） 【 必須入力 】 1 とても重要だと思っていた ○ 2 ある程度は重要だと思っていた ○ 3 重要ではないと思っていた ○ 4 考えたことがなかった ○	（設問を削除） （国産農産物の安定供給に対する安心感を評価している国産農産物安定供給効果を、食料供給能力の維持に対する評価へ見直すため、国産農産物のメリットは調査不要。）	不要なため、設問を削除

番号	令和４年度アンケート	令和７年度アンケート（案）	修正事項
5	世界の食料事情の説明		データを最新の情報に更新

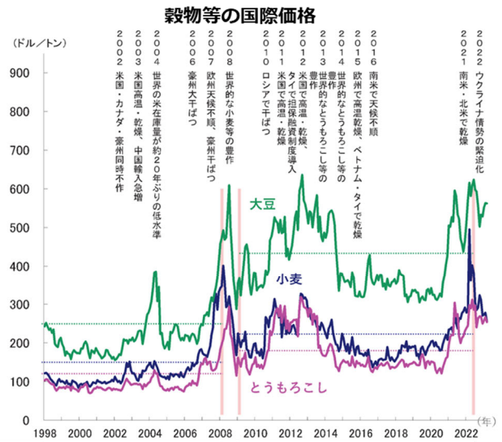


Q5 世界では、急激な人口増加などで必要な食料の量が増える一方、
食料の生産を増やしていくことについて不安な点（異常気象の頻発など）があり、
また穀物等の国際価格は上昇傾向となっています。
ご存知でしたか。
最も近いものを1つ選んでください。（1つだけ）
【 必須入力 】

1	2	3
知っていた	ある程度知っていた	知らなかった
○	○	○

3　世界の食料需給のリスク

○気候変動等による世界的な食料生産の不安定化や調達競争の激化等に、ウクライナ情勢の緊迫化、中東情勢の不安定化等も加わり、輸入する食品原材料や農業生産資材の価格高騰しています。
○さらに、化学肥料原料の輸出規制や、コロナ禍における国際物流の混乱等による供給の不安定化するなど、世界の食料需給等をめぐるリスクが高まっています。

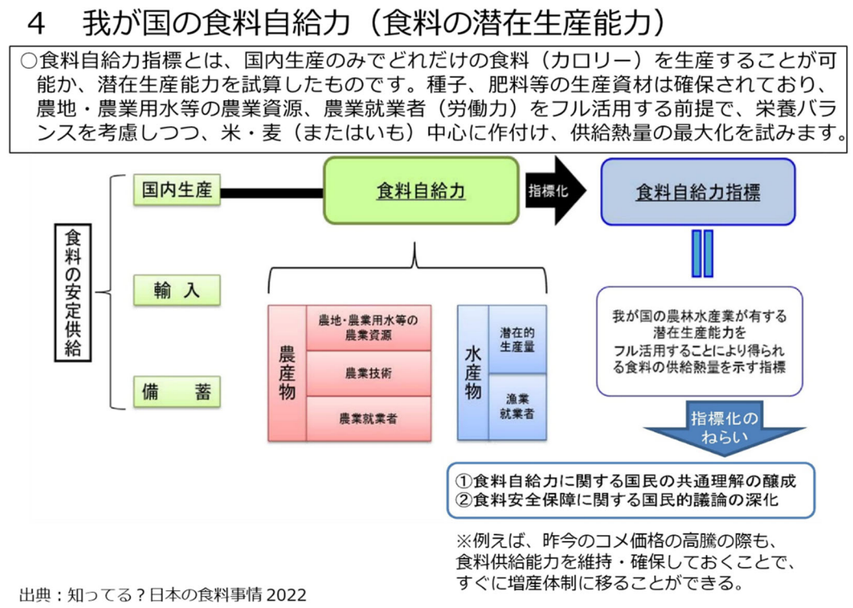


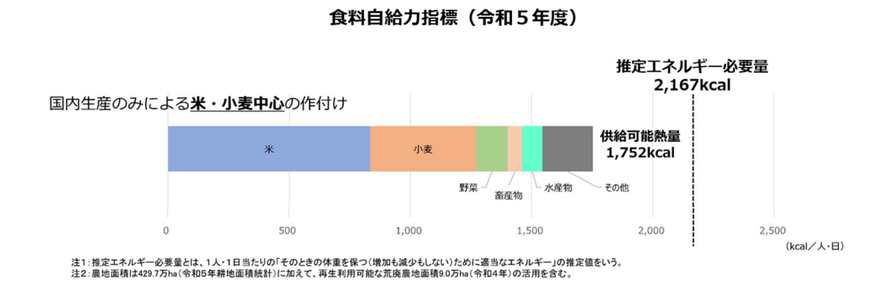
	1998～2007年平均価格	2009～2021年平均価格
大豆	240.2	412.7
小麦	136.5	210.9
とうもろこし	104.6	180.6

出典：令和６年度食料・農業・農村白書
　　食料・農業・農村基本法の見直しについて

Q3）気候変動や国際情勢等の不安定化により、世界の食料需給等をめぐるリスクが高まっています。ご存じでしたか。
最も近いものを 1 つ選んでください。（1 つだけ）

①知っていた　②ある程度知っていた　③知らなかった

<table>
<tr><th>番号</th><th>令和４年度アンケート</th><th>令和７年度アンケート（案）</th><th>修正事項</th></tr>
<tr><td>6</td><td></td><td>
食料自給力の説明


出典：知ってる？日本の食料事情 2022
米・小麦中心の作付をした場合の供給可能熱量の説明


Ｒ５食料自給率（食料自給率はエネルギー必要量ではなく供給量で計算）
＝ 国産供給熱量 / 総供給熱量必要量 = 841kcal / 2,203kcal = 38.2%
国産供給熱量 /推定エネルギー必要量 = 841kcal / 2,167kcal = 38.8%
供給可能熱量 / 推定エネルギー必要量 = 1,752kcal / 2,167kcal = 80.8%
水産物を除く供給可能熱量 1,643kcal
出典：令和5年度食料自給率・食料自給力指標について
</td><td>食料自給力とは何か及び、食料供給能力を維持・確保しておくことの重要性を説明するために追加（例えば、昨今の米需給のひっ迫においても、食料供給能力を維持・確保しておくことで、すぐに増産体制に移ることができる。）</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>番号</th><th>令和４年度アンケート</th><th>令和７年度アンケート（案）</th><th>修正事項</th></tr>
<tr><td>6</td><td></td><td>
米・小麦中心の作付をした場合の供給可能熱量での食事メニューの説明（令和３年度時点（1,755kcal/人・日）の例示であるが、令和５年度時点でもほぼ変わらない。）

４　我が国の食料自給力（食料の潜在生産能力）

○食料自給力指標における米・小麦を中心とする作付けの供給可能熱量（令和５年度）は、1,752kcal となりますが、このパターンにおける食事メニューのイメージ（注）は以下のようになります。

注：食事メニューのイメージは令和３年度の供給可能熱量（1,755kcal ／人・日）で試算

1人・1日当たり供給可能熱量
1,755kcal
（参考）推定エネルギー必要量：2,169kcal
（参考）供給熱量実績値：2,265kcal

栄養素の充足状況
たんぱく質：充足、ビタミン・ミネラル：21/26栄養素

充足している	概ね充足している	充足していない

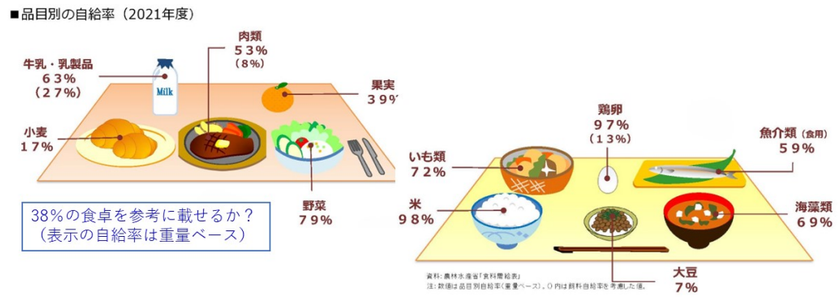
たんぱく質	ビタミンA	ビタミンD	ビタミンE	ビタミンK	ビタミンB1	ビタミンB2	ナイアシン	ビタミンB6
ビタミンB12	葉酸	パントテン酸	ビオチン	ビタミンC	ナトリウム	カリウム	カルシウム	マグネシウム
リン	鉄	亜鉛	銅	マンガン	ヨウ素	セレン	クロム	モリブデン

出典：知ってる？日本の食料事情 2022

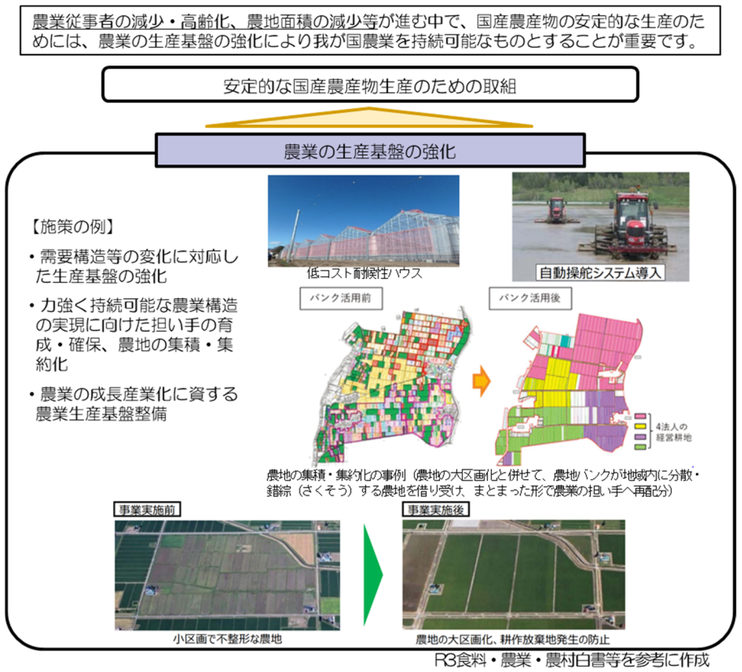
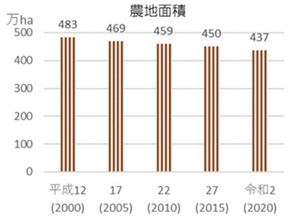
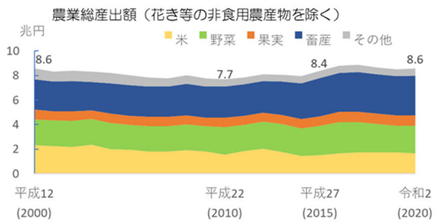
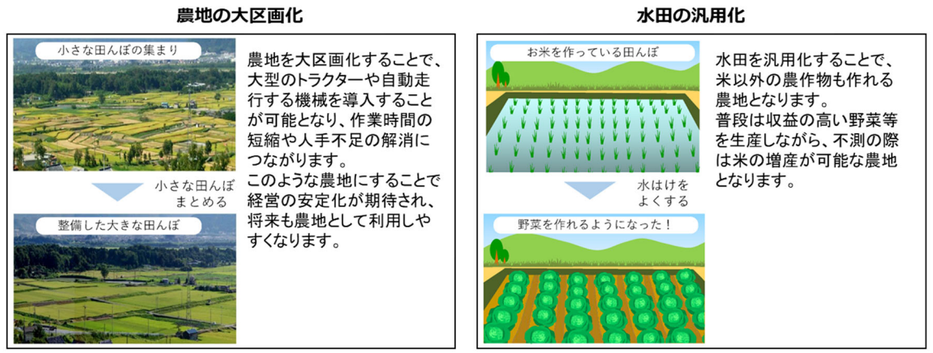
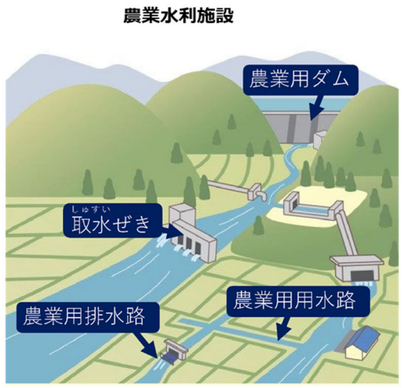
Q4）カロリーベースの食料自給率は、38%しかありませんが、潜在的な食料供給能力では、８割程度は確保可能であることについて。ご存じでしたか。

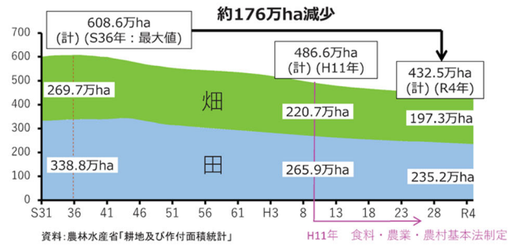
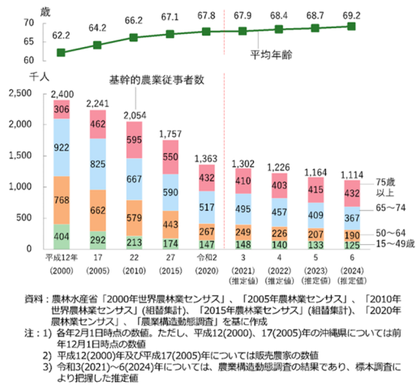
最も近いものを１つ選んでください。（1 つだけ）

①知っていた　　②ある程度知っていた　　③知らなかった



</td><td>同上</td></tr>
</table>

番号	令和４年度アンケート	令和７年度アンケート（案）	修正事項
7	食料の安定供給について基幹水利設備の内容を説明（国産農産物の安定生産）  R3食料・農業・農村白書等を参考に作成   「R3食料・農業・農村白書」（農林水産省HP）、生産農業所得統計等を基に作成 Q6 上図のように、安定的な国産農産物生産のための取組がなされています。ご存じでしたか。 最も近いものを1つ選んでください。（1つだけ） 【 必須入力 】 1 知っていた ○ 2 ある程度知っていた ○ 3 知らなかった ○	農業生産基盤を維持するための取組を説明（食料供給能力の維持） ５　農業生産基盤を維持するための取組 ○農業生産基盤を維持することは緊急時の食料を確保するためにも重要です。 ○農地の大区画化や水田の汎用化（注）を進めることにより、食料供給能力の維持に直接的・間接的に役立っています。 注：水田に排水対策を行うことにより、畑としても使用可能な農地にすること  出典：ジュニア農林水産白書2024版 ５　農業生産基盤を維持するための取組 ○また、農業生産に不可欠な農業用水の安定的供給や、豪雨時における排水機能を確保するため、農業水利施設（ダム、用排水路など）の整備が行われています。  出典：ジュニア農林水産白書2024版 Q5）我が国では、農地の大区画化や水田の汎用化、農業水利施設の整備の取組がなされています。このことが食料供給能力の維持・向上に寄与しています。ご存じでしたか。 最も近いものを１つ選んでください。（1 つだけ） ①知っていた　②ある程度知っていた　③知らなかった	わかりやすい資料に変更

番号	令和４年度アンケート	令和７年度アンケート（案）	修正事項
8		我が国の農業生産基盤の現状を説明 農地面積の減少 **6　我が国の農業生産基盤及び農業従事者の動向** ○農地面積は近年、耕地の荒廃や転用等により減少し続けており、2023年（令和4年）は432.5万haとなり、1999年（平成11年）の農地面積の89%となっています。 ○農地の減少は食料自給力（食料の潜在生産能力）の減少につながります。 **農地面積の推移**  2023年農地面積 / 1999年農地面積= 432.5万 / 486.6万 = 89% 出典：食料・農業・農村基本法の見直しについて 農業従事者の減少 ○基幹的農業従事者（注）の数は2000年（平成12年）の240万人から2024年（令和６年）は111万4千人と約20年間で半減し、平均年齢は69.2歳と高齢化が進行しています。 ○農業従事者（労働力）が減少すると生産管理が難しくなり、食料自給力（食料の潜在生産能力）の減少につながります。 注：15歳以上の世帯員のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者 **基幹的農業従事者数と平均年齢**  出典：令和６年度食料・農業・農村白書概要 Q6）農地面積は減少傾向であり、基幹的農業従事者は約 20 年間で人数が半減しています。これは食料自給力（食料の潜在生産能力）の減少につながります。ご存じでしたか。 最も近いものを 1 つ選んでください。　（1 つだけ） ①知っていた　②ある程度知っていた　③知らなかった	農業生産基盤整備を積極的に行わない場合、農地や農業従事者の減少を止められず、食料自給力も減少することを説明するために追加

<table>
<tr><th>番号</th><th>令和４年度アンケート</th><th>令和７年度アンケート（案）</th><th>修正事項</th></tr>
<tr>
<td>9</td>
<td>国産農産物が安定的に生産されることに対する支払意思額の質問（状況設定）

【ここからは、「国産農産物の安定的な生産のために、もし皆さんから負担金を募るとしたら？」という仮定の質問です。説明文をよくお読みになったうえでお答え下さい。】
このような国民に安心感をもたらす安定的な国産農産物生産のための取組は、国や地方公共団体の予算などで実施されています。
しかし、ここではこのような取組に対して皆さんが感じる安心感を金額に置きかえて評価するために、仮に各世帯から負担金を集めて行われるような仕組みがあったとしたら、という状況を想像してください。
（これはあくまでも取組の効果を評価するためのこのアンケート上での仮定であり、実際にこのような仕組みが考えられているわけではありません。）

「安定的な国産農産物生産のための取組」が行われるか行われないかによって、「状況A」あるいは「状況B」になるものとします。

現状

状況A
「安定的な国産農産物生産のための取組」が行われる場合
・不測の事態にも国産農産物が安定的に生産されます。
・あなたの世帯からの負担金が必要です。

状況B
「安定的な国産農産物生産のための取組」が行われない場合
・不測の事態では国産農産物の生産に支障が生じます。
・あなたの世帯からの負担金は必要ありません。</td>
<td>食料供給能力が維持されることに対する支払意思額の質問（状況設定）
• 農業従事者の高齢化や農村の人口減少は今後も進行が予想されますが、食料供給能力の維持には国内の農業生産性の向上が不可欠となっています。
• 農地の大区画化や農業水利施設の整備・保全は、農業経営の安定化と効率化を可能とすることで農地の有効活用と荒廃農地の発生を抑制し、食料供給能力の維持に寄与しています。
• このような、農地の大区画化や農業水利施設の整備・保全は、農家自身の負担の他、国や地方公共団体の予算などで実施されていますが、仮に各世帯から負担金をいただいて行うとした場合、という状況を想像してください。
（これはあくまでも取組の効果を評価するためのこのアンケート上での仮定であり、実際にこのような仕組みが考えられているわけではありません。）
「農地の大区画化や農業水利施設の整備・保全」のための取組が行われるか、行われないかによって、「状況Ａ」あるいは「状況Ｂ」になるものとします。
令和５年産の生産量は 661 万ｔ、民間在庫の増減量△44 万ｔ、需要量は 705 万ｔとなった。

米・麦中心の作付けの場合、米の供給能力は 1,194.5 万ｔ
仮に、事業なかりせば用水供給機能を喪失した場合、米の供給能力は 501.2 万ｔ（ △693.3 万ｔ）となる。

自給率と食料自給力では、分母が異なる。
分母を合わせると、38.2→38.8%≒39%

現　状
• 食料自給率は38%（令和５年度カロリーベース）→国内生産と輸入、備蓄を組み合わせ、食料の安定供給を確保しています。
• ただし、農地・農業用水等の農業資源、農業就業者（労働力）をフル活用できれば、栄養バランスを考慮しつつ、米・麦中心に供給熱量を最大化した場合、エネルギー必要量の2,167(Kcal/人・日)の約８割を確保できます。

状況Ａ
食料供給能力の維持のために「農地や農業水利施設の整備と保全」が行われている場合
• 農業生産性の向上により少数の担い手で大規模な農業経営を可能とし、また、需要に応じた作物の生産により、収益性の高い営農を行えるようになるため、荒廃農地の発生が抑制され食料供給能力が維持されます。
• 食料供給能力の維持により、不測の事態が発生した場合、必要なエネルギー量の80%を確保することが可能（輸入・備蓄により残りの20%を確保できればよい）で、これにより価格高騰や社会の混乱の緩和も期待されます。
• ただし、生産された分の食料はスーパー等の小売店を通じて購入可能です。
• あなたの世帯からの負担金が必要です。

状況Ｂ
食料供給能力の維持のために「農地や農業水利施設の整備と保全」が行われてない場合
• 安定的な農業用水の確保が困難となるほか、小区画や排水性の悪い農地により、農業経営の安定化や効率化が阻害され、農業従事者の高齢化や農村の人口減少と相まって、農地の荒廃が進みます。
• 食料供給能力の低下により、不測の事態が発生した場合、必要なエネルギー量の55%しか確保できません。（輸入・備蓄により残りの45%を確保が必要）
〇割へ低下という表現に修正
• ただし、生産された分の食料はスーパー等の小売店を通じて購入可能です。
• あなたの世帯からの負担金は必要ありません。

生産・供給の評価。分配・流通には影響ないことを明記。
（価格高騰や社会の混乱は、国内の供給減の結果）</td>
<td>国産農産物が供給されることへの支払意思額の質問から、食料供給能力が維持されることに対する支払意思額の質問に変更</td>
</tr>
</table>

番号	令和４年度アンケート	令和７年度アンケート（案）	修正事項
10	国産農産物が安定的に生産されることに対する支払意思額の質問（支払意思額①） Q7 ○仮に、世帯あたり 毎月100円（年間1,200円）の費用を負担する（毎年継続的に負担していただく）ことで、このような取組が行われていく場合、あなたの世帯では、この費用を負担してもよいと思いますか。（1つだけ） （負担する場合、あなたの世帯が普段購入している商品などに使えるお金が減ることを十分念頭に置いてお答え下さい。） 【 必須入力 】 1 負担してもよい（「状況A」がよい） ○ 2 負担しない（「状況B」がよい） ○	変更なし（100 円/月） （提示額はそのまま食料供給能力が維持されることに対する支払意思額の質問へ変更（以下同じ。）） 「２　負担しない」を選択したとき、Q14（抵抗回答の除去）までスキップできないか、確認	
11	国産農産物が安定的に生産されることに対する支払意思額の質問（支払意思額②） Q8 ○仮に、世帯あたり 毎月200円（年間2,400円）の費用を負担する（毎年継続的に負担していただく）ことで、このような取組が行われていく場合、あなたの世帯では、この費用を負担してもよいと思いますか。（1つだけ） （負担する場合、あなたの世帯が普段購入している商品などに使えるお金が減ることを十分念頭に置いてお答え下さい。） 【 必須入力 】 1 負担してもよい（「状況A」がよい） ○ 2 負担しない（「状況B」がよい） ○	変更なし（200 円/月）	
12	国産農産物が安定的に生産されることに対する支払意思額の質問（支払意思額③） Q9 ○仮に、世帯あたり 毎月500円（年間6,000円）の費用を負担する（毎年継続的に負担していただく）ことで、このような取組が行われていく場合、あなたの世帯では、この費用を負担してもよいと思いますか。（1つだけ） （負担する場合、あなたの世帯が普段購入している商品などに使えるお金が減ることを十分念頭に置いてお答え下さい。） 【 必須入力 】 1 負担してもよい（「状況A」がよい） ○ 2 負担しない（「状況B」がよい） ○	変更なし（500 円/月）	
13	国産農産物が安定的に生産されることに対する支払意思額の質問（支払意思額④） Q10 ○仮に、世帯あたり 毎月1,000円（年間12,000円）の費用を負担する（毎年継続的に負担していただく）ことで、このような取組が行われていく場合、あなたの世帯では、この費用を負担してもよいと思いますか。（1つだけ） （負担する場合、あなたの世帯が普段購入している商品などに使えるお金が減ることを十分念頭に置いてお答え下さい。） 【 必須入力 】 1 負担してもよい（「状況A」がよい） ○ 2 負担しない（「状況B」がよい） ○	変更なし（1,000 円/月）	
14	国産農産物が安定的に生産されることに対する支払意思額の質問（支払意思額⑤） Q11 ○仮に、世帯あたり 毎月2,000円（年間24,000円）の費用を負担する（毎年継続的に負担していただく）ことで、このような取組が行われていく場合、あなたの世帯では、この費用を負担してもよいと思いますか。（1つだけ） （負担する場合、あなたの世帯が普段購入している商品などに使えるお金が減ることを十分念頭に置いてお答え下さい。） 【 必須入力 】 1 負担してもよい（「状況A」がよい） ○ 2 負担しない（「状況B」がよい） ○	変更なし（2,000 円/月）	

番号	令和４年度アンケート	令和７年度アンケート（案）	修正事項
15	国産農産物が安定的に生産されることに対する支払意思額の質問（支払意思額⑥） Q12 ○仮に、世帯あたり 毎月5,000円（年間60,000円）の費用を負担する（毎年継続的に負担していただく）ことで、このような取組が行われていく場合、あなたの世帯では、この費用を負担してもよいと思いますか。（1つだけ） （負担する場合、あなたの世帯が普段購入している商品などに使えるお金が減ることを十分念頭に置いてお答え下さい。） 【 必須入力 】 1 負担してもよい（「状況A」がよい） ○ 2 負担しない（「状況B」がよい） ○	変更なし（5,000 円/月）	
16	辞書式回答の除去 支払意思額の提示金額に関係なくの質問に「はい」と答える回答を除去するための設問 Q13 Q7～Q12のすべての質問で「負担してもよい（「状況A」がよい）」を選ばれた方にお聞きします。 費用があなたの世帯の収入（月収（年収））の半分程度の金額となったとしても、負担してもよいと思いますか。 最も近いものを1つ選んで下さい。（1つだけ） 【 必須入力 】 1 はい ○ 2 いいえ ○	変更なし（世帯収入の半分） Q13（辞書式回答の除去）の回答者は、Q14（抵抗回答の除去）をスキップできないか、確認	
17	抵抗回答の除去 提示金額と関係のない理由で「いいえ」と答える回答を除去するための設問 Q14 Q7～Q12のすべての質問で「負担しない（状況Bがよい）」を選ばれた方にお聞きします。 そのような回答した理由に最も近いものを1つ選んで下さい。（1つだけ） 【 必須入力 】 ○ 1. このような取組を行う必要はないから ○ 2. このような取組を行うべきだが、最低でも毎月100円（年間あたり1,200円）という金額が高すぎるから ○ 3. このような取組は、税金などで行うべきで、個人の負担で行うべきではないから ○ 4. 質問の趣旨がよく分からないから ○ 5. その他	変更なし Q14（抵抗回答の除去）の回答者は、Q15（非理解回答の除去）をスキップできないか、確認	
18	非理解回答の除去 アンケートに対する理解が十分ではない非理解回答を除去するための設問 Q15 Q7～Q12の質問で金額によっては「負担してもよい（「状況Aがよい」）」と考えた理由に最も近いものを1つ選んで下さい。（1つだけ） 【 必須入力 】 ○ 1. 不測の事態における食料の確保のために、国産農産物の安定的な生産は重要だから ○ 2. 国産農作物は安全で安心だから ○ 3. 国内での農業生産活動に伴って、自然災害が防止されたり、自然環境や景観が守られたりするなどの多面的機能が発揮されるから ○ 4. 自分や家族にとって価値はないが、他の世帯も支払うのであれば仕方がないから ○ 5. その他	Q15）Q7～Q12 の質問で、金額によっては「負担してもよい（「状況 A」がよい）」と考えた理由に最も近いものを１つ選んでください。 ① 不測の事態に備えて食料の確保のために、農業生産基盤（農地・水利施設）の維持は重要だから ② 農作物の国内生産を維持することは重要だから ③ 国内での農業生産活動に伴って、自然災害が防止されたり、自然環境や景観が守られたりするなどの多面的機能が発揮されるから ④ 自分や家族にとってその金額の価値はないが、他の世帯も支払うのであれば仕方がないから ⑤ その他（　　）	視点が食料供給能力の維持に対する評価に変わったため①、②の文章を令和４年度版から変更

番号	令和４年度アンケート	令和７年度アンケート（案）	修正事項
19	回答者の属性に関する質問（農業経験の有無） 回答者の属性による支払意志額の傾向を分析するための質問。 （仮説）農業や家庭菜園の経験があることで、食料の安定供給の必要性を強く把握するため、支払意思額が大きい。 Q16 農業や家庭菜園の経験はありますか？ あなたの世帯と、親や親戚などについて、あてはまるものを1つお選びください。（それぞれ1つだけ） ※縦方向に回答してください。各項目で矢印（↓）方向にそれぞれ選択してください。 【 必須入力 】 1 あなたの世帯 ↓ / 2 親や親戚など ↓ 1. 現在、農業をやっている ○ ○ 2. 以前は農業をやっていた ○ ○ 3. 農業の経験はないが、家庭菜園などの経験はある ○ ○ 4. 上記のいずれにも該当しない ○ ○	変更なし	
20	回答者の属性に関する質問（農業を身近に感じるか） 回答者の属性による支払意志額の傾向を分析するための質問。 （仮説）農業を身近に感じることで、食料の安定供給の必要性を強く把握するため、支払意思額が大きい。 Q17 あなたの自宅などから、田んぼや畑などが見えますか。（1つだけ） 【 必須入力 】 ○ 1. 自宅の窓や玄関から見える ○ 2. 自宅からは見えないが、普段の外出（通勤・通学・買い物など）のときに見える ○ 3. 自宅からも、普段の外出のときも、見えない	変更なし	
21	回答者の属性に関する質問（田舎住まいの希望） 回答者の属性による支払意志額の傾向を分析するための質問。 （仮説）田舎に住みたいと考えている方が、支払意思額が大きい。 Q18 将来、田舎（農村地域）に住みたいと思いますか？ 【 必須入力 】 1 住みたい ○ / 2 どちらかと言えば住みたい ○ / 3 今住んでいる ○ / 4 住みたくない ○	変更なし	

番号	令和４年度アンケート	令和７年度アンケート（案）	修正事項
22	回答者の属性に関する質問（「不確実性」に対する不安感①） 回答者の属性による支払意志額の傾向を分析するための質問。 （仮説）不測の事態の食料事情に関する不安が大きいほど、不確実性を小さくする事業をより高く評価するため、支払意思額が大きい。 Q19 現状の日本の、食料の安定的な生産についてどのようにお考えですか。 最も近いものを1つ選んでください。（1つだけ） 【 必須入力 】 1 非常に不安がある ○ 2 ある程度不安がある ○ 3 不安なことはないと思っている ○ 4 食料の安定的な生産について考えたことはない ○	変更なし	
23	回答者の属性に関する質問（「不確実性」に対する不安感②） 回答者の属性による支払意志額の傾向を分析するための質問。 （仮説）不測の事態の食料事情に関する不安が大きいほど、不確実性を小さくする事業をより高く評価するため、支払意思額が大きい。 Q20 将来の日本の、食料の安定的な生産についてどのようにお考えですか。 最も近いものを1つ選んでください。（1つだけ） 【 必須入力 】 1 非常に不安がある ○ 2 ある程度不安がある ○ 3 不安なことはないと思っている ○ 4 食料の安定的な生産について考えたことはない ○	変更なし	
24	回答者の属性に関する質問（リスク許容度） 回答者の属性による支払意志額の傾向を分析するための質問。 （仮説）リスクを回避する選好が高いほど支払意思額が大きい。 Q21 あなたが普段お出かけになるときに、降水確率が何％以上のときに、傘を持って出かけますか？ 【 必須入力 】 降水確率が　　％以上のとき(半角数字)	変更なし	